

「全般検査及び台車検査の周期延伸」について 業務委員会を開催！！

5月19日、地本は『「全般検査及び台車検査の周期延伸」について申し入れ』（申第26号2022年3月29日）に関して関西支社と業務委員会を開催しました。参加者は、組合側は、柳楽副委員長、西組織部長、今田業務部長、渡邊組織担当部長、細田車両関係担当部長、梶田運輸関係担当部長、下茂運輸関係担当部長。会社側は、足立人事課課長代理、辻井運輸課課長代理、丹藤車両課課長代理、深谷人事課係長でした。

「全般検査及び台車検査の周期延伸」について申し入れ

JR東海会社は、2月17日、過去の検査・修繕実績ならびに実際に検査周期を延伸させた車両での検証により安全性を確認できたことから、全般検査及び台車検査の検査周期を延伸すると発表した。台車は、言わずと知れた一重系のもので、故障となれば人命にかかわる重大な事故に直結しかねない安全確保にとって大変重要なものである。また、この重要な事柄について事前に組合にも相談もなく、マスコミ等により知るという事態となった。よってお客様はもとより、現場社員が安心安全な車両を提供し続けるために、今回の検査周期延伸について以下の通り申し入れるので、早急に団体交渉を開催すること。

記

1. 労働組合になんの相談もしないで、いきなりマスコミにプレス発表した理由を明らかにすること。

【会社回答】

協約に則り、適切に対応している。

2. 今回の台車検査の検査周期を60万キロ18ヶ月以内から80万キロ20ヶ月以内とした根拠を明らかにすること。また、全般検査の検査周期を120万キロ36ヶ月以内から160万キロ40ヶ月以内とした根拠を明らかにすること。

【会社回答】

試験車両は、最大で台検100万キロメートル程度、全般200万キロメートル程度走行させ、台車検査及び全般検査時に取り下ろした部品を詳細に分析し安全性に問題がないことを確認した。さらに試験車両に対しては車両データの監視により異常がないことを確認した。これらの結果に基づいて社外の有識者を交えた検討委員会で議論し、周期延伸が可能であると結論付けた。

3. 台車は、言わずと知れた一重系で、のぞみ34号の台車亀裂事故や南海電気鉄道の特急ラピートの台車亀裂事故など一歩間違えたら人命にかかわる大事故に直結すると考えられる。会社が日常に言っている「安全最優先」と言うのであれば検査周期延伸は逆行しているが、会社の見解を明らかにすること。

【会社回答】 2項目と同じ回答

試験車両は、最大で台検100万キロメートル程度、全般200万キロメートル程度走行させ、台車検査及び全般検査時に取り下ろした部品を詳細に分析し安全性に問題がないことを確認した。さらに試験車両に対しては車両データの監視により異常がないことを確認した。これらの結果に基づいて社外の有識者を交えた検討委員会で議論し、周期延伸が可能であると結論付けた。

4. 令和4年4月から搬入される（J編成）から周期延伸の適用としているが、令和4年3月までに搬入している編成は、なぜ対象とならないか、またどの時点で周期延伸の適用となるのか明らかにすること。

【会社回答】

検査周期の延伸に伴って今後一部の検査設備の整備等を行う予定であるが、まず既存の設備で対応可能な編成数に限定して実施することとしたため、2022年4月以降に新製されるN700Sから適用することとした。その後、検査設備の整備状況に応じて令和4年3月までに投入したN700S及びN700Aに順次適用していく。

5. 「周期延伸に伴い、全般検査で実施しているモーター部品の潤滑剤交換を台車検査でも実施するなど一部の検査を強化します」と言っているが、どのような作業が明らかにすること。

【会社回答】

車両を駆動するモーターの軸受部において潤滑状態を維持するために、潤滑剤の交換を実施するものである。

6. 周期延伸を実施するにあたってテストカーを走行させてデータ取りを実施していたが、そのデータの内容を明らかにすること。

【会社回答】

台車検査及び全般検査時に取り下ろした部品を詳細に分析し、安全性に問題ないことを確認した。さらに試験車両に対しては、車両データの監視により異常がないことを確認した。

7. 台車検査の要員の変動はあるのか明らかにすること。

【会社回答】

部品の交換、材料削減等によるコスト減少が年間約40億円であり、人員削減については現時点でお知らせできるものではない。

8. 全車両に新検査周期が適用になったら、人員削減、部品の交換数量が削減できる等によって年間約40億円のコスト減少が見込まれるとしているが、コスト比率について明らかにすること。

【会社回答】 7項目と同じ回答

部品の交換、材料削減等によるコスト減少が年間約40億円であり、人員削減については現時点でお知らせできるものではない。

9. 台車検査周期延伸で軸箱・ギアケース等の潤滑油は80万キロも耐えられるのか、また潤滑油を変更するのか明らかにすること。

【会社回答】

試験車両の詳細は分析を確認し、安全性に問題ないことを確認している。また、潤滑油は変更しない。

以上

【若干のやり取り】

・テストカーから取り下ろした検査部品に関しては明らかに せず！

(組合) 2、3、6項目の回答の中にある「取り下ろした部品」とあるが、具体的に何を取り下ろしたのか。何個くらいあるのか。

(会社) 台検とか全般で検査する部品だ。

(組合) そうじゃなくて、軸受けとかモーターとかのことだ。

(会社) 潤滑油だ。

(組合) 潤滑油は部品ではない。

(会社) 個々について話しはしない。

(組合) どこを見て劣化しているのか調べたのか。

(会社) 会社が責任を持ってやっている。

(組合) 検査の仕方も色々あるではないか。装置を使って確認していないのか。

(会社) それは、会社が責任をもってやっている。適切にやっている。

(組合) 取り下ろした部品の調査は台検の中でやっているのか。

(会社) 台検か浜工でやっている。

(組合) 通常の手検の検査とは別にやっているのか。

(会社) 通常の手検でやっている。

(組合) 特別に試験用に訓練を受けさせていたりしているのか。

(会社) 必要な教育を受けてやっているから問題ない。

(組合) 詳細に工程を分析したというが、通常の手検なら詳細に分析できないのではないのか。

(会社) 必要な教育はしている。

(組合) 全てが専門チームによって詳細を分析したのではないのか。

(会社) 必要な教育はしている。

(組合) 教育の話しをしているわけではない。検査の方法を言っている。安全が担保できたから踏み切ったということではないか。軸受けとコロはSEではやるが、それとは別にJRが受け取ってテストカーに乗せ、電飾や摩耗状態をきっちり調べたのか。

(会社) 必要な周期延伸のためのデータは調べてある。

(組合) 聞いたことに答えなさい。

分析の方法を聞いた。通常の手検か特別な検査か聞いている。

・会社に検査の具体的内容を問うても、「会社が責任をもって調べており、問題ない」と全く明らかにせず！！

(会社) いずれにしても会社が責任もって必要なデータは調べてあり、問題ない。

(組合) 言っていることがわからないのか。

(会社) 通常か特別かはおいとして。

(組合) 何でそれをおくんだ。

(会社) 周期延伸に必要なものはやっている。

(組合) 一部の検査を強化したというが、それはモーターとか潤滑剤だけか他にないか。

(会社) モーターの潤滑剤だ。

(組合) 他にないのか。

(会社) 細かい論議はここではしない。

(組合) 「一部の検査など」ということは他にあるかを聞いている。

(会社) などだからある。

(組合) あるではないか。それは何だ。

(会社) 個々の議論はここではしない。

(組合) 潤滑剤の交換は個々の議論だ。交換はどこがするのか。JR か。

(会社) 要員についてはお伝えできるものはない。

(組合) 今の潤滑剤の交換は JR か SE か。

(会社) 今はお伝えできるものはない。

・5年間のテストカーでの軸箱の油漏れや台車交換などの不具合は「全くなかった」と名言！！

(組合) 周期延伸のところで安全性に問題ないと言われたが、テストカーで例えば軸箱の油漏れがあったり、台車交換があったりとか不具合等は全くなかったのか。

(会社) そういったことはない。

(組合) 全くなかったのか。

- (会社) 私が把握している限りでは全くなかった。
- (組合) 4項目目の一部の検査設備を行うこととあるが、具体的にはどこの設備か。
- (会社) 台検でしてもらうための設備だ。
- (組合) 他はいじらないのか。
- (会社) それ以外にもある。
- (組合) その工事はいつ頃から始まるのか。どのくらいで終わるのか。
- (会社) 具体的な検査計画はしている。
- (組合) 全ての工事に新しい検査周期が適用されるのか。時期はわかるのか。
- (会社) 令和6年以降、回答で答えている。
- (組合) どこの回答で答えたのか。
- (会社) あっ、答えていなかった。
- (組合) その時期に検査に必要な要員を減らすということか。
- (会社) 要員提示のタイミングで伝える。具体的な時期はわからない。
- (組合) 要員削減となると現場では一番の関心事になる。
- (会社) 基準人員の削減と合わせお話しさせていただく。
- (組合) 社外の有識者とあるが誰なのか。
- (会社) 大学教授等だ。個人情報だからそこまでだ。
- (組合) データに関して明らかにしないのか。
- (会社) データに関しては明らかにしない。
- (組合) 有識者である大学教授を指定したのは国交省か JR 東海か。
- (会社) そこまでわからない。
- (組合) 安全性を確かめるなら第三者機関を入れるべきだし、JR 東海が指定したならお抱えで、令和4年4月から延伸開始のシナリオに基づいた YES マンの知識、意見を言っても意味が無い。
- (会社) うがった見方をされているみたいなのが、そんなことはない。
- (組合) これまでも多々あったではないか。
- (会社) そんなことはない。
- (組合) モーターの潤滑油交換は全般でやっていて台検ではやっていた。台検で新たに加えるということか。
- (会社) 台検でやる時はある。
- (組合) 120万キロ、モーターの潤滑油をもっていたのを160万キロになるともたない、怪しくなってくるから台検でさせるといいことか。
- (会社) そこは検査を強化する。
- (組合) 潤滑油の効果が薄くなったから問題でそれに対応するため潤滑剤を交換するということか。
- (会社) そういう、うがった見方は・・・よくするためだ。

(組合) 台検の周期延伸で交検とか仕業とかの部品交換が増えたという実績があるが、普通60万キロで入るところが100まんキロに延びて不具合で部品交換が延びたということか。

(会社) 走れば交換するだけだ。

(組合) 交換すればよいという議論はしていない。

(組合) 組合としては周期延伸に反対だ。撤回されたい。

(会社) 会社としては撤回する考えはない。

(組合) 対立を確認する。

**組合としては「安全最優先」の観点から、
周期延伸には反対です！！**